

### 笠間市平日夜間診療の現状

—市民にお願いすること・医師のなすべきこと—

笠間市立病院長 石塚恒夫

4月より笠間市内の医師・薬剤師、県立中央病院の医師・看護師・薬剤師の協力の下に、平日夜間と日曜日の一次診療が笠間市立病院で始まりました。開始1ヶ月の集計で、日曜が平均35人程度で忙しいのに対し、平日夜間は3人程度です。中央病院医師によると、中央病院には20人弱の患者さんが来院され、その8割は軽症患者とのことです（電話での問い合わせに対しては市立病院受診を促していますが、直接来院した患者さんは断っていません）。中央病院の医師の疲弊を軽減し二次救急に専念してもらうのが目的ですから、存在意義を問われかねません。

市民の皆さんは、救急搬送を必要とするような重症であれば県立中央病院を受診すべきなのですが、そうでなければ平日夜間外来を受診して欲しいのです。必要があれば県立中央病院等の二次医療機関に紹介します。日曜診療は多くの患者さんが利用していただいているので、平日夜間も同様に利用していただきたいのです。

医師の側でも、自分の専門分野にとらわれず、小児を含めた幅広い患者さんの診療にあたっていただくようお願いしています。開始当初は医師ごとに診療可能な年齢・症状を設定し、電話問い合わせの際にそれを満たさなければお断りしていました。現在は問い合わせが少なくないこともあり、年齢にかかわらず全て医師に相談し、個別に判断してもらっています。一般的に一次救急の7割は、小児の発熱（上気道炎や胃腸炎）が占めると言われます。入院が必要な二次小児患者は500〜1000例に1例とされ、大人に比べ重症疾患は多くありません。しかし小児特有の疾患もあり、重症者を見逃さないように努力することが必要です。

笠間市の医療体制を維持するための平日夜間外来です。多額の税金と限りある医療資源が投入されています。市民と医療従事者が全体のバランスを考えて行動することうで、より良いものにしていきましょう。



## 笠間のがんばる企業紹介②②

市内で活躍する企業を支援するために結成された「笠間市がんばる企業応援連絡会」。このコーナーでは、連絡会に加入している企業の皆さんを紹介いたします。

### 日新シャーリング(株) 茨城工場

東京都墨田区に本社を置く日新シャーリング(株)は、大正末期操業という歴史を誇る企業です。岩間インターチェンジから約100mという好立地の茨城工場で、工場長の渡邊忠英さんにお話を伺いました。

—こちらの工場では、どのようなことをしているのでしょうか？—

「建築物に使われる鋼板を切断加工し、ひと月あたり平均1,300トを出荷しています。社名の『シャーリング』とは、英語で『切断する』という意味で、金属を切ったり、穴を開けたりするのが専門分野です。」

—どのような建物に使われているのですか？—

「主に高層ビルや橋梁です。六本木ヒルズや現在建築中の東京スカイツリーにも当社の製品が使われています。地図や歴史に残る仕事をしているという誇りを感じますね。」

—工場長は35歳とのことですが、若い方が多いですね。

「ベテランの社員もおりますが、多くは20代の若者です。ベテランの経験と若手のチャレンジ

ジ精神がうまくかみ合い、相乗効果を生み出しています。」

—事務所に社員の写真を飾るなど、和気あいあいとした雰囲気を感じます。

「当社では社員のことを『日新ファミリー』と呼んでいます。同じ屋根の下に暮らす家族のように普段から積極的にコミュニケーションを取り合い、一致団結できる雰囲気心がけています。当社のビジョンである『日本一の数多くの最高の笑顔をもたらす企業』になるため、これからもお客様と共に歩み続けたいと考えています。」



工場外観

### 「日新シャーリング(株) 茨城工場」

従業員数…26人

※文責▽笠間市役所企業誘致推進室（内線228）